

本年7月、CTIF（ヨーロッパ各国を中心に組織する国際消防組織）が、スイスで開催する青少年消防オリンピックに日本からも派遣し、ここで、我が国少年消防クラブメンバーが、ヨーロッパ各国青少年と競い、交流を深めることとしました。

我が国少年消防クラブの一層の発展に役立つものと考えています。

派遣期間 令和元年7月13日（土）から23日（火）まで

派遣先 スイス連邦 マルティニ市

■ヨーロッパ青少年消防オリンピック概要

- ・2年に1回開催、ヨーロッパの20数か国が参加し、1チーム10名、年齢12歳から16歳、各国2チーム以内
- ・大会では、消防の実技を取り入れた障害物競争や400メートルリレーの他参加各国の文化・歴史等を発表する国際交流イベント等が行われる予定

■派遣少年消防クラブ

1	北海道	札幌市	厚別中央しなの少年消防クラブ
2	東京都	町田市	町田消防少年団
3	大阪府	河南町	河南町ファイアジュニア
4	高知県	香南市	赤岡町少年防災クラブ

各クラブ員5人、指導者1人 合計24人

【編集後記】「自らの命は自らが守る」

平成30年7月豪雨は、西日本を中心に死者・行方不明者が200名を超え、平成最大の被害をもたらした豪雨災害であった。この災害を踏まえ、中央防災会議防災対策実行会議においてワーキンググループを設置し、関係省庁の連携のもと、避難対策の強化に向けた検討が進められ、その報告がとりまとめられた。今月号で、内閣府、気象庁等にその概要や対応策についてご寄稿をいただいたが、その基本的な考え方は、住民が「自らの命は自らが守る」意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援するというものである。そして防災基本計画も修正され、住民が的確な避難行動を取れるよう、防災情報をレベル1からレベル5までの5段階の「警戒レベル」により提供することとなった。

5段階の「警戒レベル」は今年の出水期から運用されるが、住民の皆さんがこの警戒レベルの内容をしつかりと理解し、的確な避難行動につながるよう、関係省庁や地方自治体、防災組織等によるご努力と住民の皆さん自身の意識改革を期待したい。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2019年6月号（通巻26号）

■発行日 令和元年6月15日

■発行所 一般財団法人日本防火・防災協会

■編集発行人 西藤 公司

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16（日本消防会館内）

TEL 03 (3591) 7123 FAX 03 (3591) 7130

URL <https://www.n-bouka.or.jp>

■編集協力 近代消防社